

教育事業名	平成 28 年度 国立室戸青少年自然の家教育事業 日本列島ともだちの輪 夏編			
事業の趣旨	お互いに異なる地域子どもたちが交流し、自然環境の違いを体験することで、ともだちの輪を広げ、郷土の良さを再認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。			
対象者	小学生（5・6年）・中学生（1・2年）			
実施期間	平成 28 年 8 月 17 日（水）～平成 28 年 8 月 20 日（土）3 泊 4 日			
参加者 （人数／定員）	23 名／30 名			
活動プログラム	8 月 17 日（水） 15：00 高知参加者着 15：20 丹波参加者着 15：40 開講式 16：20 仲間作り 17：45 夕食 18：30 グループ活動 19：30 海のライドショー 20：10 入浴 21：10 班会 22：00 就寝	8 月 18 日（木） 7：15 朝のつどい 7：30 朝食 9：00 スノーケリング① 11：30 昼食（弁当） 12：15 スノーケリング② 16：00 塩づくりと野外炊事 19：30 入浴 21：10 班会 22：00 就寝	8 月 19 日（金） 7：10 朝食 7：45 牟岐少年自然の家へ 移動（所バス） 10：20 牟岐大島着 10：35 スノーケリング① 11：20 昼食（弁当） 12：10 スノーケリング② 13：30 牟岐大島発 着替え等 15：00 牟岐少年自然の家発（所バス） 17：00 室戸青少年自然の家着 18：00 お別れパーティー 19：30 キャンドルファイア 班会 20：30 入浴 22：00 消灯	8 月 20 日（土） 7：15 朝のつどい 7：30 朝食 8：20 退所点検 8：45 感想 アンケート記入 9：30 閉講式 10：00 丹波参加者発 高知参加者発
活動の様子	<p>8 月 17 日水曜日（1 日目）</p>  <p>高知県の参加者 23 名が元気に到着した後、まもなく丹波参加者を乗せたバスが到着した。緊張で表情が硬い参加者もいれば、笑顔で出迎える参加者もいた。開講式の後の仲間作りでは、ボランティアリーダーが用意した「自己紹介」や「私あなた右左」等のレクリエーションで交流し、参加者の緊張をほぐすことができた。</p> <p>夕食後のグループ活動では、班員同士が協力して問題を解く課題が与えられ、班の絆を深める機会となった。その後の海のライドショーでは、室戸の海と牟岐大島の海について学習した。四国は恵まれた海があるが、海水温が徐々に上がることによるサンゴの白化現象や捨てられた海</p>			

のゴミや海の汚れ等の環境問題にも触れ、自分が今できることについて考えるきっかけとなった。2日目の海の活動へとつなげることができた。

8月18日木曜日（2日目）



2日目は室戸の海のスノーケリングと海水からの塩づくり、そしてその塩を使っての野外炊事を実施した。

スノーケリングは、室戸岬新港北と新港内の2か所で実施した。バディ同士が互いに体調や用具のチェックをしながら海に入ってしまった。参加者からは「青い魚（ソラスズメダイ）やチョウチョウウオがいた。」「サンゴがあった。」「魚の群れがいた。」等の感想も聞かれ、室戸の海の豊かさを実感したようだった。

塩づくりでは、各班で濃縮海洋深層水2ℓを蒸発させた。海水が蒸発し塩ができる様子を見た参加者は驚きの声を上げ、舐めると「からい」「苦い」と感想を述べていた。この塩を使って野外炊事で「おむすび」「魚の塩焼き」の調理をした。参加者は係を分担し、互いがコミュニケーションをとりながら調理をした。高知と兵庫のそれぞれの環境の違う参加者がともだちとつながりを感じ、協力することの大切さを実感することができた。事業のねらいとする友道を尊重する姿が見られた活動だった。

8月19日金曜日（3日目）



3日目は、徳島県牟岐大島にバスと渡船で向かい、スノーケリングを実施した。当日は海水の透明度が高く、渡船から海底を見ることができ、「わあ。きれい。」と参加者が感動していた。スノーケリングは昼食をはさんで2回実施した。シコロサンゴ、ミドリイシサンゴ等の造礁サンゴやクロホシイシモチ、ソラスズメダイの魚の群れも見られた。「カブトクラゲが虹色に見えた。触るとゼラチンみたいでプルプルでした。」と初めての体験を最終日の感想に生き生きと表現していた。活動の終盤には、各班でもう一度見たいところへ行き、海中ウォッチングを楽しんだ。「でも、サンゴが白くなってきているのじゃ？」とサンゴの白化現象を意識した発言もあり、環境問題を意識しながら活動している参加者も見られた。

食堂でのお別れパーティーでは、調理員さんの心こもったメニューに、どの班も笑顔で会話を楽しみながら食べていた。食事後のキャンドルファイアではスライドショーや班での話し合いで3日間を振り返り、一人ひとりが嬉しかったことや心に残ったことを伝え、互いを認め合うことができた。明日の別れがさみしいのか涙を流している参加者もいた。参加者の成長を感じることができた瞬間だった。

8月20日土曜日（4日目）



最終日。宿泊棟の清掃や寝具の片づけを協力して行った後、第1集会室に移動して感想を書いたりアンケートを記入したりした。閉講式の後、法人ボランティアが作ったお土産（バッジ）をもらい、バスが出る正面広場に移動した。高知県の参加者・法人ボランティア・職員が並び、丹波の参加者を見送った。笑顔で見送る参加者やさみしさのあまり涙を流す参加者もいたが、高知県と兵庫県の参加者が1月6日（金）に再会したときの顔を見るのが楽しみだと感じた。

事業の成果

- ・スノーケリング活動を通して、参加者が海の環境問題を考えるきっかけとなった。
- ・室戸と牟岐大島の海を見比べることで四国の海の豊かさを実感することができた。また、高知県と兵庫県のそれぞれの良さについて考えるきっかけとなった。
- ・高知県と兵庫県という遠く離れた地域で育った参加者同士が、班やバディでの活動を通して、協力し合い、互いを尊重する姿が見られた。冬編へとつながる成果が得られた。

事業の課題

- ・事業のねらいを達成するためには丹波少年自然の家との連携は欠かせない。丹波少年自然の家職員との連絡をより密にとる必要がある。
- ・環境問題に目を向ける機会づくりをと思い徳島県の牟岐大島までスノーケリングに出かけたが、移動に時間がかかるため、再検討が必要だと思った。
- ・リピーターの参加者も多いため、活動がワンパターン化しないように時期について検討し、各自が明確なめあてをもって参加できるように啓発する必要がある。

参加者の感想

- ・この4日間は短い間だったけど、あっという間だったと思います。最初は、バスの中で緊張していて「新しい友達ができるかな」「丹波の子と仲良くできるかな」と心配だったけどアイスブレイキングをして仲良くなれてよかったです。野外炊事では、協力することがすごく大事だと思った。班員全員がてきぱきと洗い物を終わらせることができた。そのときに班員が一つになったような気がしました。協力という言葉はすごい力があると思いました。
- ・私は無人島に初めて行くのが一番楽しみで、ワクワクしていました。船に乗っているとき、とても気持ちがよかったです。無人島というだけあって普通の海の何倍もきれいでした。海がすけて見えてゴミもほとんど落ちていませんでした。
- ・僕はこういった行事に参加したのは4年生の時以来です。うまくやっていけるか不安だったけど同じ班の人たちが気軽に声をかけてくれてとてもうれしかったです。他の班の人たちも声をかけてくれてたくさんの友達ことができました。たくさんの友達とは冬まで会えないけど、冬にはいっぱい遊んで、もっともっと友達と仲良くなりたいです。